

# Campus Mail

For all the students

FIT Fukuoka Institute of Technology  
福岡工業大学

この件のお問い合わせは広報課へ  
TEL : 092-606-0607  
MAIL : kouhou@fit.ac.jp

掲示期間 2021-100  
10月19日～11月9日

## 『課題解決型インターンシップ』 篠栗町役場 こども育成課 実習報告

### 課題解決型インターンシップとは、

- ・『実践する力』（学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力）の育成を目的とした、2・3年生対象の選択科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の1つの型。
- ・企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。2名程度でチームを組み活動することにより、自分の専門性を活かしながら他者とチームで働く力を養うことができる。

#### ■ 課題

放課後児童クラブの児童の増加及び新型コロナウイルス感染症対策等で、児童館職員の負担は増加している。日常業務やコロナ感染対策等、柔軟なアイデアで業務の効率化や子どもの環境改善につながる提案を行い、コロナ禍における「支援員勤務シフト作成補助プログラム」の作成を目指したい。

#### ■ 提案内容

- ・児童館でのコロナ対策の改善を提案
- ・シフト表作成を簡略化、効率化するプログラムを作成

児童館では、課題解決に取り組みながら積極的に子供達と交流しました。



外遊びの様子



お弁当の後の読書の時間

### 【実習を通じての感想や学んだこと】

情報通信工学科 3年 大川 玲央

インターンシップに取り組んで、課題解決型ということもあり行き詰る点もあったが、ヒアリングをしどうすればもっと良くなるのかを調べたり相談したりし大学では感じるここのない空気感を感じることができた。

知能機械工学科 3年 出口 誠人

児童館の先生方との業務に関するヒアリングだけでなく、何気ない会話や子供達と遊びながら児童館での過ごし方を観察することで課題点、改善点を見つけることが出来た。また自分では気づかないミスが多く、自分の未熟さを感じると共に成長に繋げていきたいと思った。

今回のインターンシップを通じて、普段関わることのない子どもたちや支援員の方々と関わり、支援員の責任や重要性、仕事の多さを感じました。また、コロナ禍になり、さらに支援員の負担が大きくなっていることも分かりました。子供たちも、自分たちのころと比べると感染症対策などもあり、自由度が減っているように感じました。その中で、児童館の先生たちの負担を減らすために、児童たちが今よりも快適に過ごすためにはどのようにしたらよいかを実務、ヒアリング等を積極的にしながら、第三者の目線から柔軟に意見をだすことができました。また、自分がどのような場面でコミュニケーションをとることが苦手なのかを知ることができました。報告資料作成では先生やメンターの方から多くのアドバイスを頂き、相手に分かりやすく伝える報告資料を作ることができました。報告会では、発表のときの癖があることが分かりました。これは課題点として改善を重ねていきたいと思えます。今回の課題解決型インターンシップで学んだことは、今後の就職活動や発表をする際に活かせるよう意識していきたいと考えています。(大川・出口)



問題点の言語化（問題点や気づいたこと、改善点を書き足し、課題解決案を形にした）